

平成29年度第2回草津市健康づくり推進協議会健康増進計画推進部会について

日 時	平成29年8月3日(木) 13:30~15:15
会 場	草津市立草津アミカホール 2階 文化教室1
参 加 者	社)草津栗東医師会、社)草津栗東守山野洲歯科医師会、 草津市健康推進員連絡協議会、公社)滋賀県栄養士会、 一社)滋賀県歯科衛生士会、事務局

【内容】

- ・草津市健康づくり推進協議会について
 - 第1回草津市健康づくり推進協議会での協議内容について
- ・「健康くさつ21(第2次)」中間評価について
 - 中間評価素案について

【協議内容・意見】

○評価に関すること

- ・国、県の計画の方針を踏まえて、「健康くさつ21(第2次)」についても、平成35年度まで延長することについて、他の計画も計画期間が一緒の方が、市全体で取り組むことができるので良いと思う。
- ・指標の評価について、やはり○や×など目が行きがちになる。指標について、どのように評価しているか提示してほしい。
- ・高血圧や糖尿病について、データの構成年齢によって数値への評価が変わる。近年、高齢者については、血圧が低すぎることにってはかえって状態がよくないとされ、血圧140~150と少し高めでよいとされている。指標数値目標について、高齢者の割合が高いと目標達成自体が難しいということになる。40~89歳までひとくくりではなく、分けて分析していくことも必要。
- ・歯科の数値について、全国的なデータはDMF指数(※)を調べればわかる。
- ・歯科健診を受けに来た人のアンケートなどから算出している数値については、草津市は人口流入が多く、また意識調査での数値であれば、調査に回答している時点で関心が高い層の割合となる。歯科健診を受ける方については、意識が高く、継続して健診を受けている。生活に余裕がないといけないという面もあり、生活の格差についても検討が必要。
- ・歯があっても、歯周病などによる口腔機能障害などで噛めない人が増えてきている。歯科の目標項目について、歯があっても噛むことに満足している方が少ないと結果が出ており、ちゃんと噛んで食べる、飲み込めるという健康的に食事ができているかを評価することが健康づくりを考えると大切だと思うので、それぞれの評価項目ごとを評価するだけでは健康であることの評価ができないと思う。関連のある項目の評価を併せて評価する必要がある。
- ・健康推進員の人数についての目標値が高い、新しい人は増えるが併せてやめていく人もあり減っていることについても考慮してほしい。今年の養成講座に、夫婦や小さい子

どものいる方が参加してくれていて、今後の活躍が楽しみである。健康推進員についても地域差があり、マンション群が含まれる地域については、健康推進員の活動が浸透しにくい。

※DMF指数とは以下の合計

D(decayed tooth):未処置歯数、M(missing tooth; because of caries):喪失歯数、

F(filled tooth):処置歯数

○施策に関すること

・健康推進員で綾羽高校での食育の出前講座を行った。自分たちで考えて朝食を作ってもらった。様々なメニューが考案されていた。普段、先生はおいしいものを作るように指導しているようだが、おいしいものイコール濃い塩分ではない。今回の出前講座で適正な塩分のお味噌汁の味について、普段の家の味より濃いか薄いか印をつけてもらったところ薄いほとんどだった。今回初めて、高校生対象の講座を行ったが、若い世代に伝えていくことは難しいが必要なことである。

・給食は子どもの味覚を発達させることに寄与している。中高生については、自分で学んでいける年齢であり、小さい時の味覚はその後にも大きく影響するもの。自分たちで食事を作ることのできる年代にアプローチすることで保護者にも良い影響を与えることができると思うので、市などが働きかける対象について、世代を広げることは大切。

・草津市は減塩給食に取り組んでいるが、そのことについてのPRが不十分。もっとPRすることで、子どもから家庭に広げてもらえるのではないかな。

・若い人への食生活習慣についての啓発が重要で、若いうちに実践できると、一人暮らしなどになってもきちんとした食生活を送ることができる。

・減塩などの具体的な方策が地域で実施できるとよい。

・このごろ、料理をしない人が多い。コンビニやスーパーの惣菜などによる食事が多い。平和堂ではヘルシー弁当などを作っているが、そういった流通関係に惣菜の味付けについて行政からの働きかけができないか。また、実施している企業や学校のPRに力を入れることも大切。

・健幸宣言事業所の食堂などについても、減塩やヘルシーメニューの提供についての働きかけができないか。